

「いわての復興教育」プログラム説明会・特別講演会

平成25年1月24日(木)一関合同庁舎において「いわての復興教育」プログラム(改訂版)説明会を行いました。説明会では、学校教育室復興教育担当指導主事から改訂の趣旨や改訂された主な内容についての説明がありました。また、1月30日(金)には東山地域交流センターで「復興教育特別講演会」を開催しました。講演会では、国立教育政策研究所の山森光陽総括研究官、学校教育室の森本晋也指導主事を講師に「教育課程に位置付けた復興教育の取組」について講演がありました。

いわての復興教育プログラム説明会について

(1) 「いわての復興教育」の意義について

子どもたちが「震災津波の経験を後世へ語り継ぎ、自らの在り方を考え、未来志向の社会をつくること」ができるようにします。



(2) 復興教育を推進するための5つのポイント

各校における取組の指針になるように下記の5つのポイントが示されています。

ポイント1「教育の目的を補完・充実させます」

震災津波を受けて、教育の目的である「ひとづくり」に「郷土を愛し、その復興・発展を支えるひとづくり」という目的が加わりました。

ポイント2「教育的価値を明らかにしました」

震災津波の体験からクローズアップされた3つの教育的価値を明らかにし、【いきる】【かかわる】【そなえる】というテーマにしました。

ポイント3「教育的価値一覧表を作成しました」

子どもたちに身に付けさせたい教育的価値を、学校経営の重点に位置付けたり、教育活動を組み立てたりするために、それぞれの教育的価値に対応した7つずつの具体的な項目を設定しました。

ポイント4「学校経営へ位置付けます」

学校経営の基本方針では「いわての復興教育」の目的について触れ、経営の重点には教育的価値一覧表を参考に自校の復興教育を位置付けます。

ポイント5「教育活動の組み立て方を示します」

震災津波の体験を通して得た思いや気づきをもとに、大切な視点〔体験から学ぶ、組織的・有機的指導、各校の実情に応じた内容〕をふまえた指導の構想を立てることが必要になります。

いわての復興教育特別講演会について

○講義1：「復興教育の視点でとらえた教育課程の推進について」講師：総括研究官 山森光陽

要旨：震災時にきちんと行動した子どもたちをどう育ててきたのかを振り返り、身に付けさせたい力を意識して、形成的な評価を大切にした指導を進めていくことが必要です。



○講義2：「復興教育の視点でとらえ直した防災教育について～釜石東中での実践をとおして～」

講師：岩手県教育委員会 指導主事 森本晋也

要旨：震災を風化させず、尊い命を自他で守る防災を進めるために、災害を自分のこととして捉え、知識を身に付けの確に判断し、主体的に行動できる力を育てることが必要です。

コンプライアンス情報③

凍結路に注意！

冬期間になってから教職員による交通事故が多発しています。原因は、凍結路でブレーキを踏んだ際にスリップし、前の車に衝突してしまった例がほとんどです。特に次のことに気をつけましょう。

- ① スピードを抑えた走行と十分な車間距離
- ② 前走車のブレーキランプに注意
- ③ わずかな下り坂での優しいブレーキ操作

③について、急な下り坂は警戒して走行しますが、少しの下り坂では意識が薄くなりがちのため、事故に結びついている例が見られます。油断大敵です。

春まで、あと1ヶ月ほどです。みんなで明るい春を迎えましょう！